

社会福祉法人 不二健育会

特別養護老人ホーム ケアポート板橋

ドニ セティアワン・ウリル アブソル(特養 EPA介護福祉士候補生)

功 績 EPA介護福祉士候補生のウリル・ドニ(尼)2名は現地説明会で出逢い、ケアポート板橋をSS(第一候補)で選んでくれました。コロナ禍により来日が遅れ学習支援もオンラインとなり、今までの候補生とは異なる学習環境を強いられました。

また、自身の体調不良やご家族の状況により、両者3年目の国家試験は不合格となるも、セカンドチャンス制度にて介護福祉士国家試験に両者共合格。

勤務前後の自己学習を欠かさず、異国の地で国家資格を取得し、自身の夢を叶えると共に法人への貢献を行ってくれた功績。

推薦者氏名 特養介護主任 小西誠之

推薦理由 コロナ禍において十分な学習支援ができない状況下、また異国の地、外国語での国家試験受験は、並大抵の努力では実現できなかった夢の実現と考えます。更に大きな不安の中、加療しながらでも諦めず夢をつかみ取った2人は賞賛に値します。

法人としても有資格割合が上昇することにより、加算取得割合が安定します。また、本人達への資格支援の処遇も上がります。「これからもケアポート板橋で頑張ります」と自信に満ち溢れた表情で話す2人に今後の期待値も込め、推薦させていただきます。

内 容

ウリルアブソルは第8陣、ドニセティアワンは第9陣でのインドネシアEPA介護福祉士候補生として、R3年・R4年に入職しました。現地説明会におけるケアポート板橋就職ブースへ足を運んでくれ、両者とも学習支援や生活支援の充実、先輩方が既に活躍している情報などから、第一希望施設として選んでくれました。

第8陣・9陣はコロナ禍の施設受け入れとなり、例年とは全く異なる条件での受け入れ、研修体制を強いられることとなりました。入国が半年遅れ学習もオンラインのみとなり、十分な支援を受けられずに国家試験対策を行わなければならない状況でした。

そのような中でもウリルの学習成果は合格ボーダーラインを超えておりましたが、遠方の他施設で勤務する奥様(EPA介護福祉士候補生)が急遽母国へ帰国することとなり、精神的に落ち着かない日々が続いてしまい、残念ながら3年目の国家試験は不合格という結果となってしまいました。ドニは結婚の為に一時帰国した際、重大な疾患が発覚し緊急入院。なんとか病状は回復していきましたが1年間の休職を余儀なくされ、実務経験期間が足りず、3年目の試験は受験できない結果となります。

彼らは自分の家庭を持ち、介護福祉士取得という夢に向かって努力してきました。生活担当職員を中心に、学習支援者・OJT担当一丸となり、ビザ変更対応や通院同行、精神的サポートなど、できる限り法人で彼らを支えてきました。職員のネットワークもフル活用し、外部研修機関の協力へも繋げながら、勿論彼らも勤務前・後に自主勉強を重ね、今回の第38回介護福祉士国家試験に無事合格することができました。